

平成 24 年度 事業報告

公益事業 1 : 心とからだの健康保持及び増進事業

1. 健康増進の普及・啓発事業

(1) 普及啓発活動

ホームページを活用し、各種がん検診の正しい知識の普及及び受診啓発を行い、生活習慣の改善による健康への効果等の予防活動事業の紹介など広く、香川県民の健康増進のための有意義な情報を発信して参ります。

健診結果から有益な情報を発信する為に大量のデータの収集が必要になることからホームページ・新聞・講演会、街頭啓発活動を通じて、がん検診及び特定健診・定期健診等の受診勧奨を行いました。

生活習慣病、がん予防などに関する普及・啓発のパネル展示及びパンフレット配布等を当法人の施設・巡回健診会場においても行い、生活習慣改善での効果やがん検診への正しい理解等の普及啓発活動を行いました。更には、国・県が主催する、HIV 検査受診啓発週間（6/1～6/7・12/1）等の主催イベントにも協力いたしました。

当協会においても、24 年 4 月から別館施設内に、保健相談コーナーを施設受診者への健康教室を行うために開設しました。「野菜を 100 g 余分に摂取しましょう」との食育事業啓発コーナーも併設し施設利用者延べ 6,000 名に好評を得ました。

(2) 健康教室の開催

施設健診受診者向けに実施している健康教室は、東かがわ市住民 420 名、さぬき市住民 600 名、三木町住民 800 名に対して開催をしたが、保健指導対象者が多いときは、教室開催の要員が昨年同様に手配出来ない事もありました。

2. 調査・研究事業

(1) 精検追跡調査・がん調査・有症率調査

各種調査は、当法人の各健診事業の健診結果データに基づき、その後の状況追跡をして情報を収集し地域の特性を知るためには経年的に継続調査をすることが必要であり、データ解析用機器を設置し、解析精度の向上を図るために過去結果データ 20 年分のデータベース化を計り、データベースを元にした疫学的課題の検討を進める予定である。作業を開始し、調査研究のための平成 24 年度データ取得 100,000 件を収集しました。

(2) 学会発表及び研修会

各種検診の多様化、高度化に対応する為に、課題や研究テーマを設定しデータ分析の結果や日常業務において気付いた点等を研究し、関係各機関が実施する日本総合健

診医学会、精度管理研修会、業務研修会等に各所属毎に、職員を積極的に参加させるとともに検診検査技量の向上を計りました。

学会参加・発表及び研修会一覧

月日	学会・研修会・講習会名	内容	所属課名
5月25日	日本消化器がん検診学会	画像診断における読影について	放射線科
6月16日	デジタルマンモグラフィ技術講習会	マンモグラフィー精度管理研修会	放射線科
6月29日	日本乳癌学会学術総会発表	乳腺疾患の診断と治療について	医局
9月11日	認定基準研修会日本総合健診医学会	優良施設認定の為の研修会	医局
8月30日	全国情報統計研修会	日常の問題点の解決研修会	業務課
10月24日	日本公衆衛生学会発表	脂肪肝に関する要因について	施設検診
25年2月28日	予防医学中央会技術研究集会発表	無線による、社内ランの問題点	業務課
25年3月2日	日本マス・スクリーニング学会	専門技術研修会	先天性代謝

(3) 健診データの分析・提供

健診で得られたデータを各部署で分析し、毎年作成している事業報告の作成配布により情報提供を行っています。事業報告については、予防医学事業中央会各支部並びに、県・市町の健康担当課及び当会利用事業所に事業報告書（健康管理の参考資料）として、配布させて頂いております。健康管理の上で必要な情報の提供に努めてまいります。

特定健診；12,000件、特定保健指導：動機づけ支援172件、積極的支援96件を実施した。事業所及び職域健診：29,000名、肺がん検診：24,000件、胃がん検診：9,400件、乳がん検診：4,400名、子宮がん検診；4,600名、前立腺検診：5,300件、大腸がん検診：20,500件、学校心電図検査（標準12誘導）：12,600件の各検診・検査データ約100,000件を収集しております。

機器などの整備は保健医療技術や情報技術などの進歩を踏まえ、検診検査精度の維持向上、顧客サービスレベルの向上及び業務効率化等に対応する為に最新健診検査機器の調達更新をしました。

精度管理の推進については、健診検査技術者の技量水準を一層向上させるため、技術研修会や日本公衆衛生学会などに参加し、研修及び発表をしております。

また、内部精度管理の徹底及び外部精度管理にも積極的に参加しております。日本医師会・日本臨床検査技師会・県臨床検査技師会等に参加しています。

公益事業2：新生児の先天性代謝異常症の早期発見に必要な各種検査事業

1. 先天性代謝異常検査（タンデムマス法に移行）

先天性代謝異常検査については、平成24年4月から、新しくタンデムマス法を用いた検査（1件当たり3,000円税込）に移行しました。19疾患のスクリーニングが可能となり、偽陽性や偽陰性例の改善も図られ、精度の高い検査結果が提供でき、

先天性代謝異常疾患の早期発見や早期治療へと繋げる態勢（タンデムマス法専用機器を導入し、専門技術職員を配置する等の検査準備体制）が整い運用を開始しました。

※新規検査項目：13疾患

シトルリン血症、アルギニノコハク酸血症、メチルマロン酸血症、プロピオン酸血症、イソ吉草酸血症、メチルクロトニルグリシン尿症、HMG血症、複合カルボキシラーゼ欠損症、グルタル酸血症1型、MCAD欠損症、VICAD欠損症、TFP（LCHAD）欠損症、CPT1欠損症